閒

る。

きた事象について、

掌の業務を行う列車で起

事象を統計データとして

そこで同区では、発生

のは、作業負荷。報告書のは、作業負荷。報告書

内容をチェックし、乗務で記録。ファクスで報告

割の

事象置き換え

えた後の限られた時間則としており、乗務を終

提出が求められる。こう

は

した負担への問題意識も

JR東海



用課の谷欣哉課長に聞いた。 在に至るまでの取り組みについて、東海鉄道事業本部運輸営業部運 タで蓄積されることで、乗務員教育やサービス面の向上に役立て 書の記入に関する作業負荷の軽減を図るとともに、報告内容がデー 務員が手書きで作成していた紙の乗務報告書をアプリ化した。 った「JR東海乗務報告アプリ」を昨年6月から導入している。 JR東海は、在来線乗務員が携帯する業務用スマートフォンを使 乗務員の発案がきっかけとなったアプリ。開発から導入後の現

海管内における在来線の

年度に作成されたJR東

輸区だった。

これは、2020

生かす方法はないかと考

約2万6000件

は、安全・安定輸送の提 多岐にわたる。報告書 の車内空調への意見など扱い、急病人対応、乗客 の運輸区や指令で共有す との衝撃、非常ブレー 事象は、踏切障害物検 防護無線受信、動物

報を文字入力してデー 度に深度化。手書きの情 報告書の東から情報を拾 究」として、膨大な紙の の活用を目指した。 捉えることで、それを基 海鉄道事業本部大垣運輸 った。この業務研究を東 にした注意喚起や指導へ 組みは19年度の「業務研 事象の傾向を探 取り

その有用性 務員が自らにとって使い
名古屋運輸区と静岡支社
名古屋運輸区と静岡支社 交えて、仕様や機能の検オフィス部門の担当者を 上げていくこととした。 やすいシステムをつくり では沼津、大垣の両運輸

決め手となった。運用後加、変更できる自由度が ずにユーザーがカスタマの改修コストを必要とせ 性に優れている。 前提に、ユーザー側で乗 イズでき、 汎用性や拡張

アプリだった。その開発中で、たどり着いたのが 減に向けて研究を重ねる 作業負荷の軽 自ら 証を重ねた。 討

のセキュリティー確保を ステムを採用。JR東海 情報通信事業を手掛ける フトは、主に社会基盤の 西菱電機(大阪市)のシ アプリの根幹を成すソ 軽減効果が表れている。 る乗務員への差し戻しが 作成時間を短縮できた 大幅に減り、 工夫した。これにより、け選択式で設定するなど 報告内容の不備によ

作業負荷の

報告された内容は、運 各運輸区

握することも可能だ。 象経験の有無や頻度を把 このデータベースを活 した動きが各運輸区で

情報として蓄積。これが

輸区や指令の管理端末に

発生した時期、時間帯、

データベースとなって、

か、乗務員一人一人の事 用進む

することが大きなポイン に報告内容を定型化し トだった。発生事象ごと アプリ化に当たって 報告の仕方を簡素化 回答項目をできるだ 来線の全14運輸区へアプ き換えることとした。 象をアプリでの報告に置 生頻度の高い約7割の事 情報が均一化されること データの有益性も増 在

件数ベースで約5割の報 なっている。引き続き、 アプリ化を推し進める。 告がアプリによるものと

人ごとのデータを使っ で、教育や訓練に生かす なデータを基に話し合う ことで本人の自覚につな がり、管理者との面談で はデータを基に話し合う ことで本人の自覚につな が空いていたりする事象 は、積極的にトレーニン は、積極的にトレーニン は、積極的にトレーニン が空いていたりする事象 が空いていたりする事象 が空いてがずいる。 まだ、アンケート機能 を活用した事例も。シカ を活用した事例も。シカ を活用した事例も。シカ を情報を乗客に放送案内 の情報を乗客に放送案内 したかどうかというリサーチなど、副次的な使い

事業本部運輸営業部運用課では「乗務員が内へというでは、アプリのアイコン作りにも乗務員が携わった。 アプリのアイコン作りにも乗務員が携わった。 自分たちの仕事を自分たちで変えていくという 上げたシステムに親しみやすさを感じてもらい ij 专 データから傾向を読み取り ■ 乗務員 A 🛨 区平均 周知する活用が始まっている ICTソリューションで DX社会を創る ~安全・安心・快適で持続可能な未来のために~ 乗務報告アプリ



西菱電機株式会社 システム事業本部 事業開発室

大阪支社:〒530-0004 大阪府大阪市北区堂島浜2丁目2番8号 東洋紡ビル

ISO9001 (品質) 認証取得/ ISO27001 (情報セキュリティ) 認証取得 東京証券取引所スタンダード市場上場 (証券コード 4341)

06-4797-7610

info@cs.seiryodenki.co.jp



https://seiryodenki.co.jp





足柄 駿河小 谷嶼 松田 北 データベースから得られた傾向 の一例(動物と列車との衝撃) 事象別の経験回数 傾向もつかみやすい乗務員個人ごとの事象経験の 方が生まれている。 踏切支障 非常通報灯

の束。写真は一週間分書を中心とした報告書を中心とした報告書東海鉄道事業本部の指 乗務員がア 【データを深掘り】 イコンづく

アプリのアイコン

この22時台の10件のうち3367 Fが3件あります。 C25 (S·H) 行路 3367Fは 特に注意が必要かもしれません!! 乗務報告アプリのデータを活用するとこんなことも 見えてきます!今後もお楽しみに!